

1. 全国学校保健研究大会

日時：平成25年11月7(木)・8日(金)

場所：秋田ビューホテル・秋田拠点センターアルヴェ

全体会講演

「青少年の健康危険行動と防止教育」筑波大学体育系教授 野津 有司先生

平成25年2月3日に平成24年度薬物乱用防止教室指導員研修会に来てもらい、

「学校における薬物乱用防止教室の考え方・進め方」の講演をしてもらった先生でした。

日本青少年危険行動調査のデータを示され、米国とどう違うか話されました。また、国内外の授業の例を示され、子どもたちが、そのテーマについて、真剣に考えられる方法を教えていただきました。野津研究室のホームページが参考になります。

<http://hoken2.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

課題別研究協議会(第8課題 学校環境衛生)

快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

研究発表

計画的・組織的な学校環境衛生活動の実施と事後措置について

- 関係機関と連携し取り組む環境衛生活動 -

秋田県秋田市立大正寺小学校 学校薬剤師 黒澤良彦先生

定期検査・日常点検以外に、手洗いチェッカーを用いて実際に手洗いの指導を行った事例が発表されました。当院にも、手洗いチェッカーがあるので、実施したいと思います。

化学物質過敏症に対応した学校環境衛生管理の取組

- 誰もが笑顔で通える学校づくりをめざして -

大阪府枚方市第三中学校 校長 松浦作仁先生

化学物質過敏症の生徒を受け入れるにあたり、ハード面、ソフト面で、すばらしい対応をされた事例を発表されました。耐震の課題も重なり、新校舎を建築された際には、シックハウスや化学物質過敏症対応に豊富な知識経験をもつ専門家に助言・監修を依頼されました。新校舎が完成し、引き渡しを受けた時から、すべての窓を「毎朝開放し、夕方閉じる」を1ヶ月間、教員の協力で欠かさず続け、その後も長期休業中は続けています。空気清浄機10台を該当生徒の教室および特別教室に設置されました。また、具体的な対応として、使用時のみ開け閉めする特別教室などは、前もって早く開放する必要があります。新しく購入する備品は早めに納入させ、しっかり揮発させる。教科書は天日干しにする。など、化学物質を持ち込まない対策をしています。マニュアルも作成されているので、化学物質過敏症の生徒を受け入れるようになった時は、問い合わせをしたらいいと思います。

自主自立の教育方針に基づいた学校環境衛生活動

- 生徒が主体的に取り組む学校環境衛生活動の在り方について -

東京都立豊多摩高等学校 養護教諭 樋口真美先生

学友会(生徒会)活動が活発に運営されている。保険委員会では、家庭用の小さな加湿器で本当に意味があるのか?という意見があり、教室の温湿度を調査を行い、湿度の重要性を理解してもらうなどの活動を紹介されました。

指導助言

快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

千葉県教育庁学校安全保健課 主査 春田洋平先生

3人の研究発表に対して活発な質疑応答が行われました。

講義

学校環境衛生活動と学校環境衛生基準

- 保健管理と保健教育の視点から -

兵庫教育大学大学院 教授 鬼頭英明先生

中学校の保健体育の学習指導要領には以下のように記載されています。

環境衛生検査と教育がうまく結びつけばいいと言われました。

(2) 健康と環境について理解できるようにする。

ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

2. 全国学校薬剤師大会

日時：平成25年11月7日（木）

場所：秋田ビューホテル

特別講演「解体新書と秋田蘭画」

秋田県立近代美術館 学術主事 山本丈志先生

「解体新書」の挿絵を担当した小田野直武の作品を紹介されました。

第64回全国学校薬剤師大会および全国学校保健研究大会は平成26年11月6日（木）・7日（金）に石川県で開催される予定。

第63回全国学校保健研究大会

平成25年11月7日・8日

於 秋田ビューホテル

青少年の健康危険行動と防止教育

筑波大学体育系教授 野津有司 先生

青少年危険行動とは、「青少年期に始めやすく、本人や他者の現在および将来の健康や生命に重大な危険を及ぼす行動」のことである。この危険行動を調査するために、2001年と2011年に全国から無作為に抽出された高校生約1万人を対象に、日本青少年危険行動調査が実施された。調査内容は、身体運動、食行動、喫煙、飲酒、薬物乱用、性的行動、交通安全上の行動、暴力・武器携帯、自傷行動の9行動であり、10年間では、危険行動の出現状況は、男女とも良好な方向に進んでいるが、「野菜・果物摂取」や高3女子の「有酸素運動」が悪化しており、「自殺願望」がほとんど改善されていない。この結果を踏まえて、注目されるのが、レジリエンスの育成である。レジリエンスとは、「社会の変化や困難を乗り越えて、たくましくしなやかに生き抜く力」であり、これを養うことが、危険行動を防止する大きな要因となる。

第10課題 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育

安全で豊かな社会と健康を守り育てるための、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方
福岡県立城南高等学校、秋田市立旭北小学校、喜多方市立第三中学校の3校から、報告があった。

福岡県は、シンナー等薬物乱用で検挙された少年の数は、13年連続ワースト1位となっている。校内では、学校全体が、同じベクトルで喫煙、飲酒、薬物乱用防止の指導にあたる体制が整っている。それを軸に指導のPDCAサイクルを展開している。

旭北小学校は、小学校6年間を本校で過ごす児童は6割程度という秋田市の中心に位置する学校である。曖昧なイメージから正しい知識の習得への「知識という免疫力」、自己存在感・自己肯定感を高める「心の基礎体力」を柱に、児童自信の過去・現在・未来を見据えながら学習を展開している。ゲストティチャーとして、学校薬剤師、元麻薬捜査官等に講和をお願いし、薬物乱用防止キャラバンカーを市の教育委員会が日程調整し、各学校を巡回している。

喜多方市立第三中学校は、生徒が主体で薬物乱用防止に取り組み、学校の設定する指導目標等を外部講師が理解の上で、協力している。

以上3校の報告で共通しているのは、子供たちの積極的な取り組み、学校、家庭、地域の連携した積極的な取り組みであった。

薬物の乱用、依存、中毒の違いと「脱法ドラッグ」を理解する

国立精神・神経医療研究センター 和田清 先生

1. 薬物乱用

薬物を社会的許容から逸脱した方法・目的で自己使用すること

2. 薬物依存

薬物乱用の繰り返しの結果生じる脳の以上の為に、薬効が切れてくると薬物を再度使いたいという渴望に打ち勝てずに、その薬物を再使用してしまう状態であり、精神依存と身体依存がある

3. 薬物中毒

薬物中毒には、急性中毒と慢性中毒の2種類がある

急性中毒は依存の存在に関わりなく、薬物を乱用さえすれば誰でも陥る可能性のある状態であり、典型は「一気のみ」の結果生じる急性アルコール中毒である

慢性中毒は、薬物依存の存在の下でその薬物の使用を繰り返すことによって生じる人体の慢性的異常状態であり原因薬物の摂取を中止しても、原則的には自然回復しないことが多い状態

4. 「脱法ドラッグ」を理解する

使用する薬物が、捕まる薬物から、捕まらない薬物（脱法ドラッグ、向精神薬等）へ変わってきている。脱法ハーブは、成分は不明で成分の均一性がなく、何が起こるか分からない得体の知れないものである。急性毒性の強い薬物に依存はない。

報告者 沖田敏宜

第63回全国学校薬剤師大会

平成25年11月7日

於 秋田ビューホテル

平成25年度 日本薬剤師会学校薬剤師賞受賞者
10名

平成25年度 日本薬剤師会学校薬剤師活動協力者感謝状受賞者
5名

平成25年度 文部科学大臣表彰学校保健及び学校安全表彰受賞者
14名

特別講演

「解体新書と秋田蘭画」

秋田県立近代美術館 学芸主事

山本 丈志 先生

秋田蘭画とは、江戸時代中期、西洋美術の陰影法・遠近法を日本の伝統絵画に取り入れたものであり、洋風画は長崎・江戸・須賀川の3系統ある。秋田藩に関わる人たちが描いたものを特に秋田蘭画という。小田野直武が描いた「不忍池図」には、謎が多くその解明に取り組んでいる。

報告者 沖田敏宜